

経営のヒント46 「逆鱗」

〜〜〜 故事寓話から学ぶ! 〜〜〜

中国の古典から、経営の本質や人間性を高めるヒントがいっぱいあります。

「逆鱗」という語源をご紹介します。

逆鱗という言葉は竜のもつ鱗のことで、「韓非子」の説難編にあります。

著者の韓非子は韓の皇族の生まれで、儒家の荀子の教えを受け、法学によって世を治めることを説いた人物です。秦の始皇帝は「韓非子」を読んで感激し、使者としてやってきた韓非子を厚遇した。が、その才を妬む者の讒言で投獄され、殺されてしまった。

竜は摩訶不思議な霊獣で、天子（皇帝）の守護神とされている。又、天子そのものを指し、拝謁することを「竜顔を拝する」などともいう

韓非子も君主を竜になぞらえ、主君に直言しようとする者は、相手の好悪の情をよく察知しなければならぬと忠告している。

竜はふだんはおとなしくて乗ったりできるが、その咽喉もとに一尺ばかりの逆さの鱗が生えていて、うっかりそれにふれると食い殺されてしまう。君主にもこうした逆鱗がある。ゆめゆめ逆鱗にはふれてはならぬ。

この言葉から察するに、逆鱗とは目上の人にだけあるものもようだ。企業なら社長ということにある。

目上の人への非や過ちを直言することを諫言というが、「良薬は口に苦し、諫言は耳に痛し」という諺もある。たとえ正論であっても、相手が聞きたくないと思っている内容だということもあろう

しかし、相手の顔色をうかがって対処するといくらのことは誰でもやっているだろう。上司に堂々と反対意見を述べ立てるのは勇気がいる。事の当否は別にして、相手は自分の権威が侵されたと考えがちだからだ。そうした点で韓非子の考え方は現実的だと言えよう

しかし、いつも逆鱗にふれぬようびくびくしているのも考えものだ。ときには敢然と逆鱗にふれることを恐れぬ勇気も必要だろう

いかがですか？ あなたは「逆鱗」については？

?? 「逆鱗」にふれる諫言する勇気はありますか？

もしくは、諫言されてもちゃんと聴けておりますか？

では「逆鱗」にふれないように「諫言」するには、どうすればいいのか？

みなさん、ご存知でしょうか？

つまりは、「権威」を侵さないようにする!

上司が「自分で判断する」ようにもっていく!

それが、智慧なのです。

歴史、古典には、その宝庫がつまっています。それが一番重要なことだと考えています。

「論語読みの論語知らず」とならないようにしましょう!